

# 創業131年、宮田製本所の「ツインフレックス方式」 「100年製本」と呼ばれる 見栄えのよい丈夫なPUR製本

宮田製本所



明治17年創業の宮田製本所(本社・文京区後楽、工場・埼玉県朝霞市泉水、渡邊宏明社長、048・420・8875、<http://www.miyataseihonjyo.com/>)は、平成

12年にPUR製本の導入に踏み切った。PURとは、使用する接着剤 Poly Urethane Reactive(反応性ポリウレタン)の名称の略であり、PUR製本に冠されることが多い。

従来の書籍の場合、本をどこかのページで開いておくには何かで押さえる必要が生じるが、PUR接着剤を使用すると、奥まで開けるし、任意のページを開いたままにしておくことが可能となる。また、非常に強い接着力で紙が1枚1枚しっかりと固定されているため、繰り返し読んでも手荒に扱ってもページがばらけることがない。熱にも強く、マイナス30℃から120℃まで耐えるので、真夏の車内に放置しても本が壊れることもない。

しかし、この技術を扱いこなせるようになるまで、まさに試行錯誤の毎日だった。PUR接着剤は空気に触れると温かいうちでも固化してしまうので、飛散した接着剤が機械に付着して固形化した作業が中断せざるを得ない。また、粘性が高いため日本で普及しているアジロ綴じには向かなかった。「他社にできないことをやろう」という同社の強い思いからこのようなさまざまな課題にも前向きに取組み、機械メーカーの協力も得てアジロ綴じに対する「ツインフレックス方式」をもってPUR接着剤の導入に成功した。

同社の開発したPUR製本は、当初は広開性が重視される写真集などで採用されていたが、参考書・問題集などに広がり同社の年間売上の約6割を占めるまでになった。

「『あそこに任せれば何とかなる』と言われる製本会社をめざしたい」と渡邊社長は語る。



広開性が高く丈夫なPUR製本